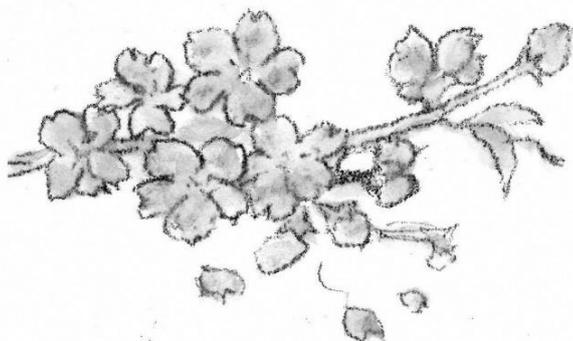


くらぼよ

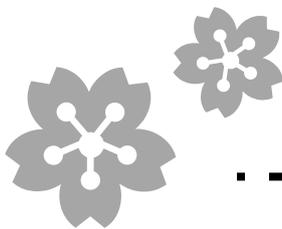
くらぼよとは
Collaboration
コラボレーション
(共同・協働)と
~しようよの組合せ

みんなで
男女共同参画社会実現
に向けて活動しようよ

第48号 2019・春



- ✿ わが子を性の被害者にも
加害者にもさせないための性教育について
- ✿ 学生主導で作られた性的同意に関する
ハンドブックが素晴らしい！
- ✿ エンディングノートがつなぐ家族の絆
- ✿ 部活女子のからだを守ろう！
- ✿ 女性のための護身術セミナー
- ✿ 図書紹介
- ✿ 今後の男女共同参画センター主催の講座



2019年度「男女共同参画週間」
(6/23～6/29)

キャッチフレーズ
「男女共同参『学』」

男女共同参画週間記念講演会

日時：6月29日(土) 10:00～12:00
場所：三木市立市民活動センター 2F 中会議室
内容：ハーモニカ ミッキーカルテット演奏会
～懐かしの昭和歌謡～
講演：地域社会に活気を！
講師：伊藤 公雄さん(京都産業大学教授)

わが子を性の被害者にも加害者にもさせないための性教育について

先日、小6の女の子が、先生から性的ないたづらを継続的に受けていたことによって不登校になったというニュースを目にしました。教師が児童になってことをするのか…というのはもちろんのこと、もう一つ「継続的に行われていたのであれば、その子は誰かに助けを求められなかったのだろうか?」と思いました。しかし、考えてみれば、「誰かに助けを求めないといけない」ということがわからなかったのではないかとも思ったのです。何の知識もない状態で、ましてや相手が「先生」であるのに、声を上げることは難しいと思うのです。大人でも声をあげることは難しいのに、何も教えられていない子どもがSOSを出せるとは思えません。

日本の性教育は「触れてはならないもの」という扱いで、きちんとした教育がされていないのではないのでしょうか。きちんとした教育がされないまま、インターネットなどで間違った知識をつけてしまうことにより、低年齢での望まない妊娠や、性感染症による被害が子どもの人生を脅かすことになっているのです。

子どもを性被害から守るために…という目的で低年齢の子どもを持つ母親に向けた性教育の

アドバイスをしている動きもありますが、まだまだあまり広くは認知されておらず、問題意識を持たない限りそのような動きをつかむことは難しいです。低年齢の子どもを対象にした性犯罪が起こっている現状からすれば、早いうちから年齢に応じた性教育を行うことが、子どもの身を守ることに繋がっていくのではないのでしょうか。

先日、三木市内の高校で性教育の講演会が実施され、正しい避妊方法とそのためにかかる費用について学習した生徒から「そんなにお金がかかるなら性行為はしない」と感想が出ていたとのこと。

高校生はもちろんのこと、市内の全ての小・中学校でも、触れにくいところをぼかしたような性教育ではなく、もっと現実に沿った性教育を行って、家庭や社会、学校など全体を通して子どもを性的な被害者にも加害者にもさせない三木市にして欲しいと強く思いました。

(編集委員:M)



学生主導で作られた性的同意に関するハンドブックが素晴らしい!

「性的同意」という言葉を耳にしたことがあるでしょうか?

「性的同意」とは性行為に及ぶ際、相手の同意を得る必要があるというものです。夫婦や恋人でも、常に相手の同意を得る必要があるのです。

この、性的同意に関するハンドブックが、関西の大学生と京都市男女共同参画推進協会との共同で作られました。作成することにな

ったきっかけは、海外留学をした学生が、日本と海外での認識の違いに驚き、日本で声をかけて動き始めたとのこと。社会をもっと良くしていくために、学生が行動を始めたことが素晴らしいと感じたニュースでした。

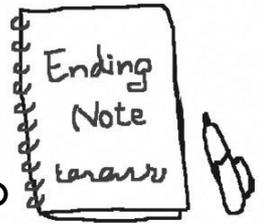
三木市でもこのような学生を巻き込んだ活動をしていけば、もっと素晴らしいものができあがっていくのではないのでしょうか?

(編集委員:M)

セミナー報告
2月8日
口吉川町公民館

男女共同参画センター出前講座 エンディングノートがつなぐ 家族の絆

講師：行政書士 中井さとみさん



三木市男女共同参画センター主催の講座で、終活、エンディングノートについてお話を聞かせて頂きました。私自身、人生の振り返りを過ぎた所で、自分の今後の生き方、家族に対する責任について、考える機会となりました。

エンディングノートがなぜ必要か？ひと昔前、「死んだ後は、子に任せる」という考えが主流だったのですが、急速な高齢化と時代の変化（三世同居の減少）から、家族で支え合ってきた老後・介護・葬儀をこれからは自分で自立して考え、どのように今後の人生を生き生きと過ごすか、自分自身が人生設計を考える時代に変化している。老後（死後）の不安を和らげ、前向きに生きることを目的とし、残された時間を充実した人生にする為にも、エンディングノートを活用し、万一のことに備えて「自分の希望を書き留めておく」。「大切な情報、メッセージを家族や大切な人に伝える」。「残された家族の負担を軽減す

る」。「財産を整理して将来のお金の計画を立てる」等々、個々に応じて目的も様々です。その根底には家族や大切な人のことを思い、自分が今出来ることは何かを考え行動することが、絆を深めることに繋がり、エンディングノートを通じて自分自身を見つめ直し、行動することで安定し、充実した人生を生きることができるようになります。

先日、ある記事を目にしました。「透析再開したいな…」と言った腎臓病患者の女性がその翌日死亡したという内容でした。主治医との話し合いで、彼女は透析をしないことを決断したのですが「透析しない」「治療再開しようか」亡くなるまで女性の胸中は揺れていたということでした。女性の気持ち、残された家族の思いはどうだったのかと考えている時、一行でも一文でもエンディングノートに書くことが、家族の絆をつなぐということなのかもしれないという思いが脳裏をよぎりました。（編集委員：T）



部活女子の からだを守ろう！

三木市内で活動している人権教育団体「まなびや・いちご塾」です。

去る2月16日、婦人科ドクターとスポーツ栄養士さんをお招きし、中高生で部活動をしている女子とその保護者、指導者などを対象に、「部活女子のからだを守る！」という講座を開きました。

もし足が痛かったら、通常は外科や整形外科を受診すると思いますが、もしそこで「疲労骨折」と言われたら、部活女子の場合その後は婦人科も受診したほうがいいのかもかもしれません。というのは、初経を迎える時期からエストロゲンという女性ホルモンの分泌が高まり、その働きにより20歳頃までに骨量がピークを迎えるのですが、月経不順や

無月経の状態が続いていると、エストロゲンの分泌が低下し、十分な骨量が得られず、放置すれば生涯にわたって骨量が低いままになってしまうというのです。骨量不足は疲労骨折の原因のひとつになりえます。部活女子には成長だけでなく運動にも大量のエネルギーが必要ですが、無月経はエネルギー不足のサインです。「楽チンでいい」では済まされないと、この講座で学ぶことができました。

講座では他にもたくさんの知恵を授かりました。中学校卒業までに初経が無かったり、不規則で間があく等、気になることがあれば、早いうちに婦人科を受診する方がよいようです。おばあちゃんになっても健康で生き生きと運動できる女性であるために…。

三木市人権教育団体：まなびや・いちご塾
manabiya.ichigojuku@gmail.com

メールQRコード



女性のための護身術セミナー

講師：三木警察署生活安全課署員



女性です。

男女共同参画セミナーでは初めての実技指導メインの護身術セミナー。参加者は10代から60代まで幅広い年齢層の女性です。「護身術は相手を攻撃するものではなく、自分の身を守るためのもの」との説明から始まりました。続いて“不審者に手をつかまれた時にどうすれば逃げられる？”の想定で、二人一組になり逃げる方法を参加者が考えて実践してみました。でも、いきなり手を掴まれるとどうしても不審者から離れようとし、相手と引っ張り合いになってしまうもの。これでは、掴まれた手は外れません。そこで護身術の映像を見ながら講師のアドバイスを受けて試してみると、見事ス

ルツと外れるではありませんか！参加者もちょっと動きを変えるだけで外れるコツに感動していました。

実技指導終了後の質問タイムでは、実際に遭遇した、またはいつか遭遇するかもしれない痴漢や不審者にどう対処すればよいか等、活発に質疑応答が行われました。これらの質問に対して、大きな声を上げる、携帯・防犯ブザーの音を鳴らすことで助けを求める、不快な思いをした時は迷わず110番通報する等の基本事項を押さえた上で、質問の事例ごとに動きや対処法を実演していただきました。

普段から防犯意識を高め、さらに今回指導いただいた護身術でいざという時に備えることの重要性を確認できたセミナーでした。

(編集委員：N)

▼ 図書紹介 ▼

絵本「あっそうなんだ！性と生」

浅井 春夫 著 エイデル研究所 2014年

自分や家族のからだに疑問や関心を持ち始めたお子さんにちょうどよい絵本をお探しの方におススメします！見やすいイラストで、自然に子ども達が知りたいことをハッキリ、バッチリと説明しています。

巻末には大人向けの解説つき。保護者の方がまず手にとって下さい。必要な部分をお子さんと一緒に読むのもよし、さりげなく本棚に入れておくのも良いかもしれません。



今後の男女共同参画センター主催の講座

	テーマ	講師	日時	会場
男女共同参画セミナー 出前講座	とも 男女に学ぼう防災	斉藤容子さん 関西学院大学復興制度研究所 研究員	5月23日(木) 10:00~11:30	緑が丘町公民館

三木市男女共同参画センター

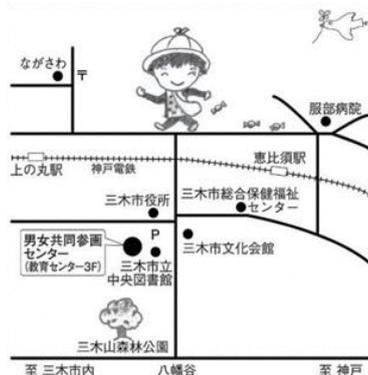
愛称 “こらぼーよ”

三木市福井 1933-12
三木市立教育センター 3階

TEL&FAX：0794-89-2331

開館日時：月曜～金曜 9時～17時
(※祝日を除く)

企画・編集：情報誌“こらぼーよ”編集グループ
発行：三木市男女共同参画センター



編集後記

平成の時代もあとわずかになりました。貴重な時代の移り変わりを経験出来ると同時に、新生活のスタートを迎える時です。固定概念にとらわれず、自身を見つめ直す良い機会として気力を充実させ、素敵な春を迎えましょう。(編集委員：T)